

[次期可視/赤外スペースに関する議論点]

- 一般論:次期スペースに求められるもの
 - ・装置側からみて
 - ・サイエンス側からの希望
- 光赤外コミュニティーと SPICA/JASMINE/JTPF
- 天文台と SPICA/JASMINE/JTPF
- 天か地か

次期可視光/赤外スペースに期待される機能

- ・高コントラスト可視観測
- ・広視野回折限界可視撮像
- ・高感度紫外線分光
- ・高解像度中間遠赤外観測

具体的には

- 9桁以上のコントラスト
- HST/COS の 10 倍以上の UV 分光
- HST/ACS の 10 倍以上の感度の撮像
- $<0.01''$ の解像度の達成
- AO よりも広視野の確保

[何が求められているか]

児玉：広視野撮像装置と面分光の分光器が欲しい

長尾：サーベイでは地上でもいいが、個々の構造を調べるのにスペースの高空間分解能が…

千葉：広視野/安定した PSF。中分散分光で視線速度、ある程度のアバNdance観測

茂山：AGB だと高解像度の中間遠赤外：干渉計

星の組成のために高波長分解能の紫外線分光

小久保：AU スケールの撮像

長尾：銀河形成と AGN を分離できる高空間分解能観測、ダストに埋もれた AGN の中間赤外観測が重要か

[光赤外コミュニティーとの関係]

片ザ：SPICA の検討はバランスを欠いて進んでいる。具体的に観測装置をどうするかなどは全く

検討されていない。リソース不足。

いったいどういう観測装置が必要なのかの検討を。

SPICA を使う Scientific requirement の厳しい要求を出して欲しい。

中川：SPICA サイエンス研究会を秋以降に開催したい。

日本の宇宙開発自体に閉塞感がある。新しい機関を引っ張っていくのはそれを使う

科学ミッション。特に天文学にとってのメリットは絶大だし、一般にも分かりやすい。

こういう機会を利用して、宇宙開発に圧力をかける良いチャンスでは。

スペースのコミュニティを広げる良い機会。

SPICA WG への参加も。

サイエンス WG の立ち上げも考えている。

郷田：JASMINE は、サイエンスの面では、アストロメトリ情報という天文学の基本情報のみを提供するという

意味で他のミッションとは異なり目的特化型といえるが、基本情報なので大なり小なり、天文学のほとんどすべての分野と関係する。データが出てくるまで時間はかかるが、得られるであろうデータをもとにサイエンスとしてどのような展開が可能なのかは、天文のコミュニティで今からでも検討が必要。

あと技術面では、特に光赤外コミュニティに対しては、望遠鏡/検出器の技術開発の協力が欲しい。また、超小型衛星による技術開発や実証実験にも興味があれば、ご参加を。

田村：セミナーに参加を。